

■ テレビで広報紙が読める仕組みを提供——「i広報紙」と「光BOX+」

自治体広報紙を閲覧するための電子ビューアアプリと、テレビに接続して利用する情報機器との連携により、テレビで広報紙が読めるサービスが始まっています。

1.1.7自治体のほか 9議会がアプリを導入

連携したのは、福岡市の広告会社、株式会社ホープが提供する電子ビューアアプリ「i（アイ）広報紙」と、西日本電信電話株式会社（NTT西日本）が提供する情報機器「光BOX+（ヒカリボックスプラス）」。



「i広報紙」は2014年7月から提供されているスマートフォン向けの無料アプリで、自治体が配信する広報紙の電子書籍をスマートフォンで閲覧することができます。登録したユーザーには広報紙の発行日においては広報紙の発行日における

「i広報紙」は2014年7月から提供されているスマートフォン向けの無料アプリで、自治体が配信する広報紙の電子書籍をスマートフォンで閲覧することができます。登録したユーザーには広報紙の発行日における

知らせが届くほか、「気になった記事を画像として切り抜いて保存したり、メールやSNSを通じてシェアしたりできます。

広報紙を発行する自治体側は、無

料で配信できるほか、閲覧データの収集・提供により、利用者の反応を知ることができます。

従来の「iOS版」に加え、同年10月からはAndroid版がリリース。ユーチャーのダウンロード数は今

年1月に1万を超えた。また、配信側では、2015年2月1日現

在で1.1.7自治体が導入しているほ

か、議会がより発行する地方議会でも、9議会が採用しています。

i 広報紙の電子書籍を閲覧 人もスマートフォンを利用しない

「i広報紙」の利用に関し、自治体

で、9議会が採用しています。

スマートフォンを用いない人

も広報紙の電子書籍を閲覧

することができるようになります。

従来の「iOS版」に加え、同年10月からはAndroid版がリリース。ユーチャーのダウンロード数は今

年1月に1万を超えた。また、配信側では、2015年2月1日現

在で1.1.7自治体が導入しているほ

か、議会がより発行する地方議会でも、9議会が採用しています。

スマートフォンを用いない人

も広報紙の電子書籍を閲覧

することができるようになります。

従来の「iOS版」に加え、同年10月からはAndroid版がリリース。ユーチャーのダウンロード数は今

年1月に1万を超えた。また、配信側では、2015年2月1日現

在で1.1.7自治体が導入しているほ

か、議会がより発行する地方議会でも、9議会が採用しています。

スマートフォンを用いない人

も広報紙の電子書籍を閲覧

することができるようになります。

従来の「iOS版」に加え、同年10月からはAndroid版がリリース。ユーチャーのダウンロード数は今

年1月に1万を超えた。また、配信側では、2015年2月1日現

在で1.1.7自治体が導入しているほ

か、議会がより発行する地方議会でも、9議会が採用しています。

『いいね！三芳町写真コンテスト』を開催中——三芳町

埼玉県三芳町は、町内で撮影した風景や、町内に住んでいる子どもの写真、町内にあるお店のおすすめ写真など、三芳町のさまざまな魅力を写真で伝える「いいね！三芳町写真コンテスト」を開催中です。応募された写真は審査し、フェイスブックページ「いいね！三芳町」に期間中、随時掲載されます。募集期間は4月10日まで。

応募条件は、三芳町内で撮影した写真、三芳町にゆかりのあるものを写した写真、他のコンテストに応募していない写真など。応募は一人2作品まで。町外の人も応募可能。また、スマートフォンや携帯で撮影した写真でも応募できます。

応募方法は、撮影日時、撮影場所、写真のタイトル、写真の説明、撮影者の方名（ベンチーム希望の場合は

紙）を導入している自治体からは、「i広報紙」で見られることで、広報紙がより身近になつてほしい」などの声が同社に寄せられています。

「今後も、「i広報紙」を通じ、住



●「いいね！三芳町写真コンテスト」
<https://www.town.saitama-miyoshi.lg.jp/town/koho/photocon2015.html>



発売中です

●本誌連載中「お力ネも 時間も特別な技術もいらない NPOのための広報“なるほど”講座」の著者である武永勉氏による、NPOの広報のための実践マニュアル。

●武永氏は新聞記者を経て、現在、NHKで放送記者として活躍中。これまで27年間の記者生活では、NPOや市民グループの取材に力を入れてきた。そこで感じたのは「すごい。だから、もったいない」という思いだと言う。

●「NPOや市民グループは、本当に魅力的な活動をしています。時間もお金も足りない中で『社会を良くしたい』と頑張っている。すごいと思います。だからこそ、その魅力があまり伝わらないことをもったいないと思うのです。頑張っている人の思いや団体の活動の魅力を伝えるお手伝いをしたい。そんな思いで書きました」(武永氏)

●どうすれば思いや活動が伝わり、人が集まるか。実際に使えるノウハウがたっぷりつまった1冊です。

著者：武永 勉
出版：大阪ボランティア協会
発刊：2010年3月
価格：1,200円+税

※大阪ボランティア協会・書籍販売のページ (<http://osakavol.shop-pro.jp/>) または、Amazonなどのネット書店からも購入できます。

からうの声として上がっていたのが、スマートフォンを持つていない住民にも広報紙の情報を届けたいといつ

要望でした。それに応えたのがNTT西日本の「光BOX+」で、「光

BOX+」によるテレビを活用した新たな利用シーンの普及拡大を進めていたNTT西日本との思惑が一致しました。

「光BOX+」は、自宅のテレビでインターネット「nonstop」を楽しむことを「ソニセプト」に開発された情報機器で、2013年6月から提供されています。シンプルなデザインのリモコンが特徴で、子どもや高齢者も使いやすい設計になっています。

利用には、ブロードバンド回線にルーター等が別途必要。

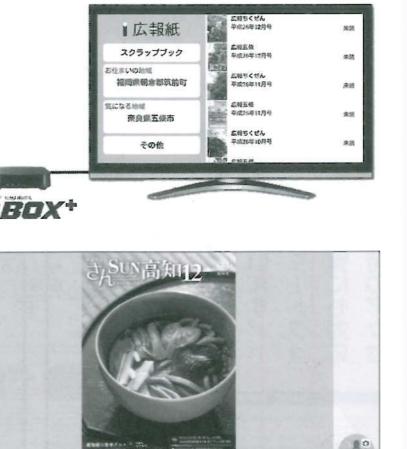
「光BOX+」は、ブロードバンド回線に接続した「光BOX+」を介して、パソコンやスマート

画面で広報紙の電子書籍を閲覧します。こうして、パソコンやスマート

X+」を使い、普段見ているテレビ画面で広報紙の電子書籍を閲覧します。インターネットに接続した「光BOX+」を使い、普段見ているテレビ画面で広報紙の電子書籍を閲覧します。

「光BOX+」では今後、ユーチュ

ーバーイメージとしては、テレビとインターネットに接続した「光BOX+」を使い、普段見ているテレビ画面で広報紙の電子書籍を閲覧します。



「光BOX+」を接続したテレビで「i広報紙」を利用した際の、広報紙の画面イメージ（上・下）。リモコン操作で画面を拡大できる